

美術研修

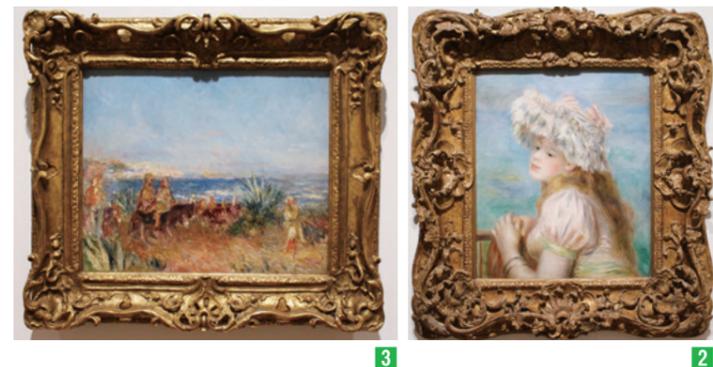
2023年4月19日水  
講師：美術研究家 沼辺 信一

都心から一番近い観光地・箱根にある  
ポーラ美術館と彫刻の森美術館を日帰りで訪問し、  
箱根の自然と世界有数のコレクションを堪能しました。

# 「箱根の美術館」をたずねて



1



3

2



5

4



9



7



6



11



10



8



13



12



16



14



15

1 ポーラ美術館の玄関で 2 ピエール・オーギュスト・ルノワール「レースの帽子の少女」1891年 3 ピエール・オーギュスト・ルノワール「ロバに乗ったアラブ人」1881/1882年頃 4 クロード・モネ「睡蓮の池」1899年 5 クロード・モネ「睡蓮」1907年 6 クロード・モネ「バラ色のボート」1890年 7 ジョルジュ・スーラ「グランカンの干潮」1885年 8 「グランカンの干潮」に描かれた青色の額縁 9 アンリ・マティス「リュート」1943年 10 解説する沼辺信一氏 11 樹木より低くするため円形壕の中にある建物 12 八重桜とオシップ・ザツキン「住まい」1960年 13 箱根の山並みを背にしたヘンリー・ムーア「横たわる像：アーチ状の足」1969-70年 14 ニキ・ド・サン・ファール「ミス・ブラック・パワー」1968年 15 彫刻の森美術館の「ピカソ館」 16 彫刻の森美術館 上記2～9の所蔵元 ポーラ美術館蔵 上記12～15の所蔵元 彫刻の森美術館蔵

ポーラ美術館の収蔵品は、企画展ごとに名作を選びすぐて展示されています。今回見ることができなかった名作がまだ多くあります。また、彫刻の森美術館は、紅葉の時期には別の風景が見られると思います。機会があれば再び訪れるのも良いでしょう。  
今回は、宿泊研修を企画してまいりますので、皆様ふるってご参加ください。

ピカソは、晩年に陶芸作品を多く作りしました。可愛らしいものや、ピカソらしい絵柄など様々な作品が展示されていました。紙面で紹介できないのが残念です。

## 彫刻の森美術館

彫刻の森美術館は、1969年に開館した、日本で最初の野外展示の美術館です。箱根の山々や樹木などの自然が彫刻に彩りを添えます。日本庭園でいうところの借景です。八重桜とのコラボレーションは今の季節ならではの美術鑑賞でした。  
野外展示の彫刻の維持は大変なようで、一部で修復作業が行われていました。付着した汚れや苔を落とすのは大変です。スタッフの努力があり、我々が気持ちよく鑑賞できるのです。  
ピカソ館を併設していて、ピカソの絵画や陶芸品が展示されています。ピカソは、一般に抽象派と思われていますが、キュビズムに分類されま

## ポーラ美術館

ポーラ美術館は、周囲の自然の景観に配慮して、建物の地上部分の高さを8mに抑えています。このため、建物の大半は円形の壕の中に収められており、入り口からエスカレーターで地下に降りて行きます。  
印象派の選りすぐりの作品が展示されています。ルノワールの「レースの帽子の少女」をはじめとした名作を間近に鑑賞しました。ルノワールは、人物画で知られていますが、「ロバに乗ったアラブ人」では、風景も大きく描かれています。  
モネの代表作である「睡蓮」は、太鼓橋や対岸などを描いた奥行きのある表現から、やがて水面だけを描いたものへと作風の変遷について解説いただきました。また、「バラ色のボート」では船が画面からはみ出して切れている構図は、ジャポニスム（浮世絵の影響を受けている）では、このお話もありました。